

7 番 通告 7 番、12 番議員、清水政美です。

通告に従いまして、町道 4 号線の安全対策は考えているかと、それから、協働によるまちづくりの今後の方向は、この 2 点について質問いたします。

大井町が進めております都市計画道路である「金子・開成・和田河原線」の坂側に架かる橋が足柄紫水大橋として完成し、今月の 16 日から使えることとなります。これで、また南足柄市、開成町、大井町が、また一つつながります。また、下山田の共有地で工事が進められておりましたメガソーラー施設「きらめきの丘おおい」が完成し、これを今月の 28 日から運転という運びになりました。また、おおいゆめの里の農業体験施設の「四季の里」も徐々に知名度をあげてきております。先日行われたお山のひな祭りの初日だった 2 月 23 日は、天気にも恵まれたせいか、多くの見物客やハイカーなどの団体が賑わっておりました。

また、今月の 21 日には、「四季の里」で早咲き桜や菜の花などのいろいろな花を観賞するイベントを組んだ里山花祭りを計画されております。平成 26 年度も、相和の単産業である農業の活性化を図るためのプレゼンとなる「四季の里」において、多種多様のイベントを開催すると施政方針に明記されております。こうしたことなどから、平成 26 年度は大井町は今までと違ったかたちで大きく変わろうとしております。そこで、2 点に絞ってまいってお伺いいたします。

1 つ目として、相和地区に下山田のメガソーラーや、おおいゆめの里という学習環境や、自然学習の場としての施設ができました。そこに行くには上大井から上山田に結ぶ町道 4 号線が重要なアクセス道路と考えております。この町道 4 号線は、1 級町道で集落間を結んだり、また町の平たん部と丘陵部にある山田地区から赤田地区、篠窪地区、柳・高尾地区を繋げております重要な町道と言えます。この相和地区には、先ほどいいましたように、「おおいゆめの里」や「きらめきの丘大井」などがあり、今後この施設を視察する人や、観光で多くの人に来ていただけたと思うわけでございます。

しかし、この町道 4 号線の赤坂付近は、狭いうえにカーブしており大型車両が安全にすれ違いすることが難しい状況であり、昨年は大雨による土砂崩れも起こっております。そこで、狭い箇所や危険箇所の安全対策としての今度の考えについてお伺いします。

2 つ目として、町では町民との協働によるまちづくりを推進しており、町の事業や地域コミュニティの中で、町民やボランティア組織等の協働によるまちづくりが浸透してきております。こうしたことから成果があ

がってきてると思われませんが、さらに一步踏み込んで、一つの事業の方向性や将来展望なども、町民とともに攻めていく必要があると考えます。例えば、おおいゆめの里はボランティア団体との共同で整備が進められておりますが、一向に将来像が町民に見えてきておりません。そこで、将来展望などを含めた町民との共存について、町の考えを伺います。

以上、2つの質問ですが、納得のできる御答弁をよろしくお願いいたします。

議
町

長 町長。

長 はい。通告7番、清水政美議員の町道4号線の安全対策は考えているかと、それから2点目としまして、協働によるまちづくりの今後の方向はというような御質問でございますが、町道4号線につきましては、上山田地内の町道8号から、JAかながわ西相相和支店前を相和小学校、さらには、中屋敷、下山田を経由しまして、県道松田国府津線に至るまでの1級幹線道路でございます。通行量は車両も大変多く、特に、秦野方面、また中井方面から上大井方面といいますか、小田原方面へ通過する車両が多い路線でございます。特に、最近では、石阿ら山のは場整備の車だとか、メガソーラー建設等に伴う建設車両など、以前に比べて大変通行量が多くみられるわけでございます。道路っていうのは、何人が通ってもいいというようなことでございますが、石阿ら山のは場整備に関しましても、1日何台の大型トラックがどのように通る、どっからどういうふうに入って、どうやって帰るというようなことも地域と協定を結んで、は場整備の事業をやっていると、考えることができないようなことなんです。通れば、どう通ったっていいじゃないか、私道だって、道路の形態して通れば何人も通っていいのに、こういうふうな道路だというようなことを、問題があるんじゃないかなと思うわけございまして、特に、町道4号におきまして、上大井地内の一部を除いては、比較的幅員が確保されていることから、概ね2車線で通行ができるというようなことでございますが、特に、上大井地内の赤坂と呼ばれる近所の広い幅員が確保できない、狭小な幅員であるというようなことでございます。また、赤坂っていう地名っていうのは、全国どこへ行っても、急ないろんなあれとか、また地質から言っても難しいところが多いわけでございますが、まさにあそこも大変急なところになっておって、大型車両の通行も、すれ違いも困難な状況にあるわけございまして、この辺のところ、特に、大きな課題になってるわけでございます。広い幅員を確保することができればいいわけでございますが、当該地域は高低差もありますし、市街化区域内で家屋も密集しておりますし、また家屋の大きな家屋じゃなくして、一般住宅が、こう軒を

連ねてるようなところがございますから、道路の幅員を広げるというような拡幅改良工事も困難な状況にあるというようなことでございますから、そのような点から、今までも、改良が進んでおらなかったというようなところがございます。大変、この延長の中でも危険度が高いというようなことを、我々も把握をしておるところでございます。町民の皆さんが安心して通行できるように、路面のカラー舗装化や視線誘導標の設置だとか、またガードレールの設置や、区画線の設置、視距改良のための草刈りだとか、いろんな施策を進めているところでございます。

また、その下山田よりのところでございますが、去年の9月に、台風によってのり面が崩落して土砂が流出するというようなことでしたが、一刻も早い復旧が地元の業者によってできたというようなことでもございました。その後は、所有者からのり面の復旧の相談がありまして、工法等について町は指導しておるというようなことでもございます。この道路は、このような課題があるわけでもございますし、また、この道路を、きちんとしていくことが相和地区の活性化にもつながるんじゃないかと、昨日答弁させていただいたわけでもございます。県道秦野線まで246バイパスで来て、それからどうやってアクセスさせて、この小田原方面に行く交通車両を流すかというようなことが、私は課題じゃないかと思えますし、当然、246バイパスが完成し、渋沢インターチェンジの供用開始というふうなことになるれば、大量の車両が流れ込んでくるというようなことじゃないかと思えますし、小田原方面からも246バイパスを使って第二東名へ乗り入れるというような車もふえるところでございます。これは、昨日も御答弁させていただいたように、相和地域の活性化を担う一行政に私はなるんじゃないかと、しなければならぬというようなものが私の大きな希望でもあるわけでもございまして、これに関しましては、秦野市さん、松田町さん、中井町さんとの1市3町でやっております協議会の中で、今後の研究課題としまして研究し、そして、これを1市3町の力で県道として整備できるような、そんな方法を考えていかなければならない路線じゃないかと思えます。その間、町としましても、最大限努力させていただきまして、危険な区間については改良を随時施していかなければならないというような認識を持っておるところでございます。

以上、1点目の答弁とさせていただき、2点目の答弁でございますが、協働によるまちづくりというのは、もう長い間、町民の皆さんと共に、今日の大井町を築く上でやってきたことであろうかと思えますし、特に、自治会と町とのかかわりは今日まであるわけでもございます。そんな中で、常

に、町と町民の皆さん方が協働して今日あるわけでございますし、当然、町民の皆様方の税によって町の運営っていうものができるわけでありませう。まあしかしながら、過去には、こういう税金を払ってるんだから、何かしてほしいというような、そういうようなお声もあったわけでございますが、そうじゃなくして、町民の皆さんも積極的に意見を述べて、その代わり、一緒に汗を流していただくというようなことを、協働によりまちづくりになってきたのではないかと考えるところでございます。

自主防災組織、自治会単位で生まれて独立した組織もみられるようになったというようなこと、こんなことも、協働の精神が育んできたことじゃないかなと思いますし、平成21年4月に協働のまちづくりを推進することを目的とした大井町自治基本条例を施行したわけでございます。この中でも、自治会をまちづくりの中心的役割を担う組織として位置づけさせていただいておるわけございまして、町そして自治会と、双方によってこのいい住民サービスができるというようなことでございませうし、また自治会によって、いろんな御意見等も町に出していただけるというようなこともあろうかと思います。そんな中で、「第5次総合計画」おおいきらめきプラン前期基本計画では、このことを重点分野の筆頭に掲げ、主な政策を4つ掲げておるわけございまして、協働によるまちづくり、世代間の交流と時代を担うひとづくりの促進、人材の発掘と育成、地域活動の支援であります。第1次実施計画における政策別計画では、さらに具体的な取り組みを数多く実施しておるわけございまして、また、協働の精神の施策別計画第1節、協働に掲げた事業だけではなく、他の政策にも数多くちりばめておるわけございまして、それらを実践していただいているところでございます。総合計画の策定につきましては、町民3,000人からアンケートを頂戴したり、ワークショップ形式のまちづくり会議を開催していただいたり、各種団体や学識経験者、また議員の代表の皆様にもお入りいただいて組織しますところの総合計画審議会において、町を取りまく現状とまた課題、そして将来への展望といった情報を共有しながら町政懇話会やパブリックコメントを通じ、計画の作成過程を共有するというようなこともやっております。これも、まさに、協働の作業じゃないかなと思いますし、社会教育委員の皆さん方では、長年、生涯学習ボランティアの発掘と育成・活用をテーマに、町と町民による協働の生涯学習の推進、また調査研究を重ねてこられて、これを踏まえまして、「学ばおおいサポート事業」が実現できる運びとなったわけでございます。これらが、町民の皆さんが主体となって学習活動や、講座の企画、運営に携わり、協働に掲げた事業だけでなく、他の政策にも数多くちりばめておる

わけでございます、それらを実践していただいているところでございます。総合計画の策定につきましては、町民3,000人からアンケートを頂戴したり、ワークショップ形式のまちづくり会議を開催していただいたり、各種、団体や学識経験者、また議員の代表の皆様にもお入りいただいて組織しますところの、総合計画審議会において、町を取りまく現状と、また課題、そして将来への展望といった情報を共有しながら町政懇話会やパブリックコメントを通じ、計画の作成過程を共有するというようなこともやっております。これも、まさに協働の作業じゃなかろうかと思えますし、事例を挙げますと、社会教育委員の皆さん方では、長年生涯学習ボランティアの発掘と育成・活用をテーマに、町と町民による協働の生涯学習の推進、また調査研究を重ねてこられて、これを踏まえまして、「学びおいサポート事業」が実現できる運びとなったわけでございます。これらは、町民の皆さんが主体となって、学習活動や、講座の企画・運営に携わり、あるいは、各種教室講座を開催し、町民がさまざまな場面で生きがいを実感できるような場づくりのできる組織を立ち上げることとしておるわけでした。まずは、社会教育委員さん、また社会教育委員経験者さんの11名による企画、運営部会が昨年8月に発足したというような運びでございます。ゆくゆくは、地域に潜在する多くのすぐれた知識や技術、豊富な経験をお持ちの方がいらっしゃいますもんで、その方々を講師と言いますか、指導者として町民が互いに学びあう、教えあう、町民大学の開校を目指すということもしていこうというような運びです。25年度中に、二つの講座を開催しましたが、当面の取り組みといたしまして、地域の人材を生かした各種教室や講座の開催、町民が主体となって教室講座を開催できるような組織づくりというようなことも必要になってこようかと思いますが、これらはそういう事業を進めていくうちに、だんだんと講師になってくださる先生方を、町内だけでなく、あの人と友達だよというようなことで、広がっていったら、また一人でにそういうことをサポートしてくださるような集まりっていうか、組織とか団体っていうものを、私は育まれてくるんじゃないかろうかと、そんなことを期待しておるところでございます。また、そんな誘導を町はしていくというようなことは、町の務めじゃないかろうかと思えます。

また、おいゆめの里におきましては、山林間伐や散策路の整備、桜や百日紅の植栽や、農業体験施設「四季の里」の整備だとか、また施設の維持管理、大変御協力をいただいて町民の皆さん方の御協力をいただいて、事業が成り立っておりますし、また来場者が年々増加傾向にあるわけでございます、その中心であるボランティア団体は、「ゆめの里育て隊」

でありまして、これらも町との協働による組織であるというようなことを認識しておりますし、こういう団体のある面では町も積極的に御支援をして、さらに活動が活発になるようにしていく必要があるんじゃないかならうかと思うわけでございます。特に、おおいゆめの里のエリアは、大変広いエリアでございますから、整備をするだけでなく、またこれらを案内してくださるサポーターって言いますか、観光サポーターっていうのも必要でしょうし、また植物や昆虫、動植物のそういうふうな四季を案内してくれる、そういうサポーターも必要じゃないかならうかと思います。大変、町におきましては、多くの町民の皆さん方に、汗をかいていただいて、町の行政運営ができてるというようなことを、我々つくづく感じておりますし、文化団体やスポーツ団体におきましても、毎週のごとく、いろんな事業を展開していただいている、大変頭の下がるところでございます。協働により、まちづくりは、町がこう掲げるだけでなくして、既に、町民の皆さん方がやっていたらというようにございまして、これらは、大変、これからも敬意を表しながら、そして、町民の皆さんとともに、手を携えていいまちづくりをしていくということが、まず、協働のまちづくりの精神じゃないかな、大変多くの皆さん方に心から感謝を申し上げまして答弁とさせていただきます。

1 2 番 それでは、町道4号線について、質問させていただきます。

町長の方から、町道4号線の重要性っていうのを、どのぐらい意識されているかを伺います。

町道4号線、先ほども言いましたけれども、平坦部から丘陵部をつなげる唯一の道路と私は理解しております。そうした中で、さらに、町道4号線っていうのは、丘陵地帯の真ん中を通っております町道6号線、これとつながっております、これがこの町道6号線っていうのは、下山田から赤田、それからいこいの村の前を通って赤田、それから、柳と高尾ですか、それとつながっている、これも重要な道路と、これが全て町道4号線から派生していると思っております。

あと県道、先ほど、町長も言いましたけども、これも秦野方面に行くにせよ、また小田原方面に行くにせよ、255を別にして相和の中を通っている唯一の町道かと思っています。そういう意味では、本当に、この町道っていうのは重要だと、しかも、今度大井町が、相和にある「四季の里」「ゆめの里」ですね。それから、下山田へ出来ました、「メガソーラーシステム」ですね。それもちょうど、今、その真ん中に、今度の予算にも入っていると思うんですが、501号線は入っていると、さらにこれを今後、計画でおそらく私の考えでは、いこいの村の方までつなげて、今の町道4号線

につないでいくのではないかと予測してるんですけども、そういう計画をこれから始めようとしていると、そうなりますと、町道6号線から今言った501号線、それが県道とまわってあるから町道8号線ですか。まわりますと、周遊ができる形になるわけなんですよ。相和地区も。そういうことになりますと、特に、平坦部から相和方面に入ってくるときには、相当な交通量が出てきますし、また、逆に、大型バスあたりがどんどん入ってきていただいて、ああいう施設に見学に来ていただく、またメガソーラーについては、そういう学習の場として視察に来ていただくというようなことが重要かと思っております。そんな意味で、今行ってみますとあそこはずいぶん狭い。一番狭いところが、大体5メートルぐらいしかないと聞いております。そうしますと、ぎりぎりでは大型は通れるんですけども、乗用車でもどっちかが譲歩か何かしなければ通ることができないということで、あそこのところは、何か広げられればいいのかと思うんですが、たまたま、あそこのところが要は、急傾斜地で、ちょうど宮地と上大井の境までやっております。これが来年度、再来年度で終わるのかな、あそこも、さらに、そのS字のところが、急傾斜地になってる関係で、これでもできればですけども、例えば、道路拡幅するときに、その急傾斜地の申請もできないのかと、それによつては、相当な拡幅ができるというようなことも、私考えたんですが、そういうふうな考えはいかがでしょう。お伺いします。

防災安全室長 崩壊防止工事なんですけど、まず、急傾斜地の所有者が施工するということは、まず大原則というふうなことであります。

急傾斜地の崩壊、危険区域の神奈川県基準でございますけども、まず急傾斜地の高さ5メートル、急傾斜地の角度の30度以上というふうなことから、あと急傾斜によって危害が生じるおそれのある民家が5戸以上あることが、この神奈川県の基準というふうなことであります。現在、大井町町内には18か所の急傾斜地の危険区域というふうなことがございます。このうち、県の基準に達してるのは、6か所ということでございますが、先ほど、議員おっしゃられるとおりです、平成27年度で現在の工事を行っております金子の宮地地区の工事が終了致します。神奈川県の方では、平成27年度に町内全域で再調査を行うというふうなことでありますので、ここら辺のところも急傾斜地に係る可能性があるかもしれないというふうなところでございます。

以上です。

1 2 番 あそこのところは広がる、何かいい方法はないかなっていう案だったんですが、確かに、急傾斜地、いろんな条件がありまして、角度の問題、

高さの問題、それから被害をこうむるであろう民家の数の問題とかいろいろありますけれども、あそこも、本当に、ちょうど27年度の宮地のところが、一応終わるっていう計画なんですけども、ちょうどあれを延長するような形にできればなと、そういうことができればあそこの辺の、そのときに道路拡幅ができればなっていうのを感じたんですけども、本当は早いほうがいいんですけども、何かいい方法でこう県の予算を取り組んでくれば一番理想かとも思うんですけども、ぜひ、そのあたりを検討していただいてやっていただきたいなと思っております。

また、先ほども言いましたけども、ちょうど、あそこの道路の脇に住宅街がございまして、その東側が土砂崩れ、去年の台風と大雨で土砂崩れが起こったということになってますが、現在見てる状態では、応急処置的な要素なんですけども、これは大体いつ頃直す計画と言いますか、わかったら教えてください。

都市整備課長 あそこの崩れた箇所は、全て民有地になりますので、行政側で工事を行う予定は今のところはございません。町長の答弁にありましたとおり、崩れた箇所の所有者の方が修正というか、修理に対しての相談がありましたので、そちらはこういう方法でやったらどうですかというような指導っていうか、助言はいたしましたけれども、行政側であそこの手当てをするというのは、今のところ予定はございません。

以上です。

1 2 番 今、この冬、かなり寒い冬ということで、毎年、毎年異常気象ということで、どうなるかわからない、昨年は大雨といっても、そんなこの辺の地域では、大きな大雨ではなかったと、今後、50ミリとか100ミリっていうことも当然考えられる、ですから、なるべく早くあそこを直しておいたほうがいいのではないかなと思うんですが、確かに民地の関係ですから、向こうでやるようなことになると思うんですけども、これはぜひフォローしていただいて、早急にできればと私は考えております。よろしく願いしたいと思っております。

それと、次の2点目の協働によるまちづくりでございますが、確か、最初に私も質問させていただいた中で説明いたしましたけれども、今、大井町は本当にこういったところで協働っていうことを行ってると思います。先ほど言いましたように、例えば、にこにこパトロール隊とか、自主防災とか、いろんな分野でこう定着してるのかと思います。私が今回、この一つの事例として挙げましたのは、例えば「ゆめの里」ここを協働でいろんな補修、整備を進めておりますけれども、当初の計画から見ると、大分ずれてきてると、それは状況の変化でしょうがないんですけども、ただ、

つくっている中から見ますと、今後どうなっていくのかと思ったら、なかなか見えてこないと、で、また、このゆめの里も整備する側と、それを利用する側と、こないだ富士山のコンテストもあったように、いろんな写真家があそこで写真を撮りに来ると、いろんな角度でいろんな人がこう見られると思うんですよね。ですから、ただ、つくるつくるだけでなく、魅力のある地域、場所にしていくのは、いろんな人の意見を聞きながら、一つの団体じゃなくて、いろんな角度から見られるような人の中で、一つの協働の中でつくりあげていくということも、これから必要だ。だから、協働はもちろんやってるんですけども、協働の中でさらにもっと踏み込んで、一つのものを作りあげていくっていうのは、そういう協働もこれから必要じゃないかなっていうことで質問させていただいたんですけども、そういう考えていうのは、これから必要かと思うんですが、いかがでしょうか。お伺いします。

地域振興課長　ただいま、「ゆめの里育て隊」、「ゆめの里」ということでの御質問ですので、地域振興課長のほうから回答させていただきますが、こちらの「おいゆめの里」につきましては、相和地域の活性化委員会の中でも今後、観光の核として整備を進めるべきところであるということで、この意見書の中では本当に中核になるような御意見でございます。町としても、この観光化を進めるにあたって、今後、最優先に検討していかなければならないというふうな認識をまず持っております。今後、来年度におきましては、こちらの整備に関しましては、いろいろと検討を進めるということでございます。まず、検討にあたりましては、町、それから相和活性化委員会というふうなもの、それから、当然今まで汗をかいていただいたゆめの里育て隊の皆さんももちろん一緒に検討していただきたいということはもちろんございます。その他、それ以外に町民の方々の意見も聞きながら、計画は策定していかなければならないと認識しております。

以上です。

- 1 2 番 ちょうど、私がこの通告文を出した後、町とゆめの里との打ち合わせがございまして、そのときにこれからのゆめの里の中にどういうものを植栽していこうかということをいろいろ検討していたんですけども、確かに、これから魅力のある、四季に応じ1年を通じて、いろいろな実がなったり、花が咲いたりするのが、これから必要じゃないかということで検討していたんですけども、ただ、そのときも感じたのが、大井自然園でも、結構いろんな利用をされております。ですから、どこを改良してやっていくか、また、どこを残すべきかというそういうことも、整合性を取っていかないと、作ったものの本来の里山じゃなくなってしまうっていうんで

すか、そういうことも考えていかないと、ほかにいろんな自然と触れあう施設がありますけども、大井町のあそこの地では、ゆめの里は違うんだというようなものをつくりあげていかなくちやいけないかと私は思っております。

これから、いろんな角度から見て、相和活性化委員会の人たちも入っていただいたり、あるいは写真家の人も来ていただいたり、あるいは自然園のあたりでそういう植物調査、動物調査してるところも見ていただいて、その意見を一つにまとめるっていうのは、大変だと思いますけども、ぜひ、そういうことをこれから、例えばワークショップ的な要素でやっていくということが、私は必要かと思います。特に、せせらぎ関係も以前にワークショップでいろいろやったんですけども、それがいろんな状況が変わって、当初の基本設計からだいぶ大きくずれてきてしまったということで、それもどうなったのかということで、本来に来年度は、あそこのところはいろいろと散策するとなってますけども、いろんな面で、あるいはあそこもまだこれから生かしていかなくちやいけないということで、昨年の夏なんかは蛸なんですね。平家蛸が相当出てるようになってます。これまでなら、しょっちゅうあそこに見にいってるんですけども、初めて、去年あたり行ってたんですけども、まあそんなふうに、いい情報を流しあいながら、人とものを築いてくということは必要かと思いますよ。ですから、ああいう「せせらぎ」にも、もう終わったっていうことではなくて、これから生かしていくにも、ああいうところでも協同的なものをしていく必要があるのではないかと思うんですけども、これからの、せせらぎですか。そちらのほうは、どういうふうに考えてるか、答えをお願いします。

町 長 せせらぎに関しましては、旧来からやっておりますところの未来堂の東側にもあるわけでございますし、その南側の東側の整備もさせていただいたわけでございますが、特に、せせらぎ散策道路は西大井の中にあるわけでございますが、こっちの未来堂の西、東側にあるところ等は、西大井の自治会だとか、特に、西大井の西友会の皆さん方が管理してくださったりというような問題、特に、西大井の西友会とかいろんな有志の方々が、水神のようなところも整理してくださったりというようなことで、大変そういう点でお世話になっておるわけございまして、今後は、どうしても西大井地内になりますもんで、西大井の皆さん方の力を借りていくわけでございますが、当然、せせらぎ散策路の方は、生産組合とか、自治会の方々にも御協力をいただいて現状を保っているわけでございます。町も、どういうところに力を入れていくかというような、町でも少しは整備をしていく必要があるのではないかと、特に、未来堂の西側にあたるところ

等は、一番あそこがメインになりますもんで、あそこを見ての良さによって、お客様の動きが変わってくるんじゃないかと、特に、あそこ辺りが町が積極的に管理していく必要があろうかと考えるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

- 1 2 番 確かに、協働っていうのは難しいんですけども、でも細かいところではいろんな仕事が行われておるんですけども、そういう一つのまちづくり一つとして事業をやっていく中では、協働のいろんな協働やいろんなグループが一緒になって考えていくという必要があると思います。それから、協働の中で町とグループだけでなく、このグループもいろんな複数のグループがいろいろ入って、いろんな角度から見ながら一つのそういう事業を成功させていくということもこれから必要だと思いますんで、今後ともそういう考え方でぜひお願いしたいと思ひまして、これで質問を終わります。